

## 再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	砂防等事業（通常砂防事業）				
地区名	おおつぼ さわ 大坪2の沢				
事業箇所	額田郡幸田町大字逆川 <small>おおあざさかさがわちない</small> 地内				
事業のあらまし	大坪2の沢は額田郡幸田町大字逆川に位置し、保全対象として避難所及び人家2戸を抱える土石流危険溪流である。 土石流の危険性の高い溪流であり、人命などを守るため、土石流対策施設の整備を推進する。				
事業目標	【達成（主要）目標】 ・避難所及び人家2戸を土石災害から保全する。 【副次目標】 ・なし				
計画変更の推移		事前評価時 (2015年度)	再評価時 (2021年度)	変動要因の分析	
	事業期間	2016年度～2022年度	2016年度～2022年度		
	事業費（億円）	1.5	2.0	精査によるもの	
	経費内訳	工事費	1.2	1.2	
		用補費	0.1	0.2	精査によるもの
		その他	0.2	0.6	精査によるもの
事業内容	砂防堰堤工 1基 溪流保全工 81m	砂防堰堤工 1基 溪流保全工 81m			
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	【事前評価時の状況】 ・保全対象を土石流から保護する必要がある。 【再評価時の状況】 ・保全対象に変化はない。 【変動要因の分析】 ・なし			
	判定	B A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。 B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。 ※事業着手時と比較することが適当ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。			
	【理由】	事業着手から必要性について変化はないため			

1) 進捗状況

【事業計画及び実績】

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
工種 区分	調査・設計	←—————→							
	用地補償				←—————→				
	工事								
	・堰堤工					←—————→			
	・溪流保全工						←—————→		
事業費 (億円)	当初計画	0.8				0.7		1.5	
	実績	1.3				0.7		1.3	
	今回計画	1.3				0.7		2.0	

【進捗率】

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率	
	計画 【①】	実績 【②】	達成率 (%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率 (%) 【②÷③】
堰堤工 (基)	1	1	100	1	100
溪流保全工 延長 (m)	81	0	0	81	0
事業費(億円)	1.5	1.3	87	2.0	65
工事費	1.2	0.5	42	1.2	42
用補費	0.1	0.2	200	0.2	100
その他	0.2	0.6	300	0.6	100

【施工済みの内容】

- ・砂防堰堤工 1基

2) 未着手  
又は長期化の理由

・なし

3) 今後の事業進捗の見込み

【阻害要因】

・特になし

【今後の見込み】

・特に阻害要因はないため、今後は計画通りの事業進捗が見込まれる。

判定

**A**

- A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。  
 B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）
- ・これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
  - ・これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
  - ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。
- C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。

【理由】

今後、計画通りの完成が見込まれるため。

<b>継続</b>	中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。
<b>IV 事後評価実施の有無と主な評価内容</b>	
<p>■対象（事業完了後5年目）    □対象外</p> <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】</p> <p>—</p> <p>【主な評価内容】</p> <p>・砂防堰堤、溪流保全工や保全対象の状況から事業効果を確認する。</p>	